

積算資料 建設資材価格指数

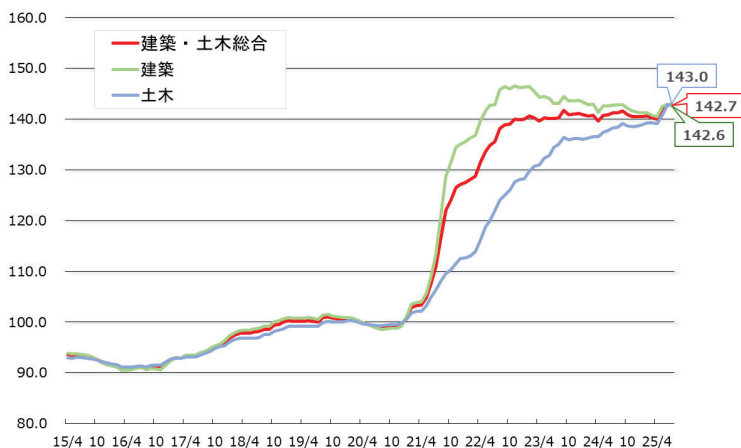


一般財団法人 経済調査会 経済調査研究所

建設資材価格指数は、建設工事で使用される資材についてその価格変動を総合的に捉えることを目的とした指数です。年々変化する建設工事の内容に対応した総体的な価格変動を表す総合資材価格指数として、価格変動に係わる資料や効率的な資材確保の資料等としてご利用下さい。

指数の推移（2025年7月調査）

全国・2020年度平均＝100



建築・土木
総合

当月指数

142.7

前月比

-0.2

前年同月比

+1.5

建築

142.6

-0.4

-0.1

土木

143.0

+0.3

+4.7

指数の詳細な計算結果はこちら

<https://www.zai-keicho.or.jp/service/build/price/>



部門別 主な指数の動き（主要10都市）

	前月比 プラス	前月比 マイナス
建築・土木 総合	- 生コンクリート：+0.6名古屋 - 骨材：+18.9札幌 - 瀝青材：+2.0札幌、+1.5仙台、+1.2新潟・広島・高松・福岡、+1.0名古屋・大阪、+0.9那覇、+0.8東京	普通鋼鋼材：-2.2仙台、-1.8東京、-1.6新潟、-1.5名古屋・福岡、-1.3大阪、-0.7高松、-0.5広島、-0.3札幌、-0.2那覇
建築	- 生コンクリート：+0.9名古屋 - 骨材：+17.5札幌	普通鋼鋼材：-2.7新潟、-2.5仙台、-2.1東京、-1.9名古屋、-1.4大阪、-1.2福岡、-0.6広島・高松、-0.3札幌、-0.1那覇
土木	- 骨材：+20.3札幌 - 瀝青材：+4.1札幌、+3.0仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡、+2.8新潟・高松、+2.2那覇	普通鋼鋼材：-2.0福岡、-1.8仙台、-1.3東京、-1.1大阪、-1.0高松、-0.9名古屋、-0.4札幌、-0.3広島・那覇、-0.2新潟

指数集計対象資材の市況

7月調査に基づく建設資材価格指数は、建築・土木総合で142.7と前月比0.2ポイントのマイナスとなった。異形棒鋼やH形鋼といった主要鋼材の需要低迷が長期化する中、市況も2022年以来3年ぶりの安値水準に落ち込んでおり、こうした普通鋼鋼材の市況軟化が指数のマイナスに作用した。一方で、土木指数は前月比プラス0.3ポイントと異なる傾向を示している。これは、中東情勢の悪化に伴う原油高を背景とした瀝青材の市況上伸が、普通鋼鋼材の下落の影響を上回ったことによる。先行きについて、鋼材市況は需要回復の兆しなく弱含み推移が続くものとみられるが、生コンクリート等の地場材の市況は底堅い。そのため、いずれの指数も大きな下落局面は想定しがたく、引き続き現行水準を小幅に上下する展開となりそう。

指数に関するお問い合わせ先

一般財団法人 経済調査会 経済調査研究所 研究成果普及部

TEL.03-5777-8212